



地域活動専門員日誌

横田田植え踊り保存会の皆さまと遠野まつり



保存会の皆さまと。左端が私です



林田麻美さん

遠野まつりで横田田植え踊りに参加しました。7月に遠野に来た私にとって初めての遠野まつり。踊ったり、太鼓をたたいたり、神輿を引っ張ったり、交通整理をしたり。子どもや保護者の皆さま、各地域・保存会の方々など、小さな協力が集まってできたまつりで、とても心が温まりました。その場にいたみんなが輝き、終わるときにはみんなが笑顔になっていて、私も自然と笑みがこぼれていました。今後さまざまなイベントなどで地域の方々や協力し、みんなが笑顔になれるような活動をしていきたいと思っています。



つなごう！ 感動のタスキ 子ども駅伝大会を初開催



号砲とともに一斉にスタートする選手たち

第1回子ども駅伝大会(NPO法人オヴェンセ遠野主催)は9月8日、遠野運動公園周回コースで開催されました。市内や沿岸などから参加した145人の選手たちはタスキリレーで心地よい汗を流しました。子どもたちのスポーツによる交流や健康増進を目的に初めて開催。同法人の菊池長悦理事長は「みなさんの元気で初めての大会を盛り上げてほしい」と期待を込めてあいさつしました。競技は1周2kmのコースで行われ、4人1チームで1人ずつ走り合計タイムを競う駅伝の部に男子22チーム、女子7チームが、個人の部には29人がそれぞれ参加。野球やサッカー、空手など各種スポーツ少年団が一堂に集い、健脚を競いながら互いに交流を深めていました。男子の部2位に入賞した青スポteam Aの佐々木愛斗君(青笹小6年)は「野球の友だちと参加しました。2位という結果には満足。中学校に行っても駅伝を続けたいです」と笑顔で額の汗をぬぐいました。 ※大会結果はP19をご覧ください

夢諦めない気持ち持とう

横澤高徳さんが道徳講演

チェアスキーヤーの横澤高徳さんを講師に招いたキャリア教育交流学習会は9月12日、小友小学校(佐藤寛校長)で実施されました。児童は夢を持ち、挑戦することの大切さを学びました。学習会は道徳推進事業の一環で開催。横澤さんは不慮の事故から車椅子での生活を余儀なくされるも、パラリンピックでのメダル取得に向けた自身の挑戦を説明しながら、困難があっても夢に向かって諦めずに挑み続けることの大切さを訴えました。菊池溜斗君(5年)は「夢へ向かい、挑戦し続けることは大事だと思いました。すぐに諦めずに何事も頑張りたい」と力を込めて話しました。



横澤さん(左)の指導を受け、チェアスキーを体感する児童たち

日本のふるさと 遠野まつり開催

1_息を合わせ一斉に飛び上がる暮坪虎舞 2_宮守小による下郷さんさ踊り 3_釜石市の東前青年会による神楽 4_南部ばやしからのもちまき。多くの人でにぎわった 5_オープニングの各神楽団体の猿田彦の行進 6_威勢のいい掛け声で元気に神輿を担ぐ神輿会「勢組」

日本のふるさと遠野まつりは9月21・22の両日、市内目抜き通りで開催されました。市内や近隣市町の65団体延べ9100人が参加し、まちを彩りました。オープニングは仙人太鼓や創作ダンスなど市民による創作舞台で幕を開け、その後、各神楽団体の猿田彦を先頭に一日市通りを行進しました。蔵の道ひろばに設置された特設舞台では、来年春ごろに釜石線をSL機関車が走ることに合わせ、花巻市、住田町、釜石市の郷土芸能団体も出演。SL運行の成功を願い、ともに舞を披露しました。ファイナーレは復興を願ったもちまきと、恒例となった市内しし踊り団体の大群舞。「福幸」と記されたたくさんのもちが南部ばやしの山車からまかれ、にぎわいました。東京都から夫婦で訪れた山田大輔さんは「妻(宏枝さん)に誘われて初めて見ました。しし踊りや虎舞などの郷土芸能は迫力があって圧巻でした」と満足した様子でした。

福島の子が自然を満喫

ふるさと学校で野外体験



早池峯神社境内で缶蹴りを楽しむ児童たち

福島県伊達市の梁川小の5年生76人は9月4～6日、本市を訪れ、遠野の文化や自然を体験しました。原発事故のため野外活動の制限が続く伊達市の児童に、外遊びなどを心ゆくまで楽しんでもらおうと、企業や団体の支援を受けて伊達市教育委員会が実施。児童たちは附馬牛町大出の遠野早池峰ふるさと学校でわら草履作りをしたり、早池峯神社周辺を散策したりして、遠野の豊かな自然を満喫しました。大橋花鳴さんは「わら縄を編むのは難しかったけど楽しかった。普段できないかくれんぼも楽しめました」と目を輝かせていました。